



## 親しい距離

校長 高橋 美都子

正門前の梅の花が徐々に咲き始め、朝の鳥の声もいろいろな種類のものが聞かれるようになりました。登校時、門に立っていても、冬の冷たい空気と異なり、暖かく柔らかな空気になったことを感じます。校舎内には、6年生への感謝のメッセージが咲き誇る大きな「木」が、体育館へと向かう廊下に掲示されています。春がそこまで来ています。

2年生の国語の学習は、工藤尚子さんの「ふきのとう」という詩から始まります。芽を出して外の様子が見たいふきのとう、水になって遠くへ行き遊びたい雪、揺れて踊りたい竹やぶが、それぞれに温かい春風を待っています。ねぼうをしている春風に、太陽は優しく笑い、声をかけます。やがて春風が吹き、皆が春の訪れを喜ぶ。そんな春の情景が、リズムカルにそして心優しく書かれている詩です。工藤さんはこの詩の解説として、ものを見るとき目の距離は、見たものとの出会い方を決めるような、不思議な働きをするのではないかと書いています。小さい子が、道端の草や地面にいる虫を素早く見つけて興味を示すのは、目からの距離が短くて、それが「親しい距離」となっているとも書いています。



今年度も後1か月。徐々に制限が緩和されたところもありますが、以前のような教育活動ができないまま1年が終わろうとしています。そのような中でも、心は「親しい距離」を保ち、互いに温かい関心を持ち、支え合いながら日々を過ごすことで乗り切ることができたように思います。例年どおり実施ができなかった行事もねらいを見極め、その時の子どもたちに必要な力を大切にしながら代わりとなる活動を行うようにしてきました。活動一つひとつに対して、「親しい距離」で何が大切かを考え、実行することで、これまでの活動を新たに見直すことのできた1年だったとも考えています。そして来年は、今年度得られたものをさらに進め、広げ、深めた活動ができるようにしていきたいと考えています。

### 4月からも中学校給食が利用できるようになりました。

2月17日付けのお手紙でお知らせしましたとおり、給食室改修工事延長に伴い、検討されていた中学校給食の提供が教育委員会のご尽力のおかげでできるようになりました。年度が変わることによる手続きは必要ありませんが、これまでどおり前月に行う確認をお願いします。また、6年生は卒業に伴う手続きは必要ありません。